

村山・寒河江皮切り 対話集会スタート

自民女性局

自民党女性局は6日、村山市と寒河江市を皮切りに「ふるさと対話集会」をスタートさせた。女性活躍推進に向け、全国の女性有権者の意見や悩みを聞いて政策に生かす。

自民は野党時代から、党三役や閣僚経験者らが全国各地に出向いて数十人の住民と座談する「ふるさと対話」を重ねている。今回は

その女性限定版。初開催となった村山市の榎岡市民センターでは市民ら女性約30人が集まり、党女性活躍推進本部長で前法相の上川陽子衆院議員と、大沼瑞穂参院議員、県連女性局長の大内理加県議と意見を交えた。

参加者は地域医療や介



護、子育てなどについて現状を訴え、考えを尋ねた。屋内遊戯施設の充実に関し、上川衆院議員は財政などを踏まえた実現可能な対応方法として、「周りの(自治体の)施設をうまく利用できる発想を大事にし、自治体の枠を越えた広域サービスを推進する施策を考えたい」と回答。また選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことについては、民法や刑法を引き合いに、「成人の年齢の問題提起として皆さんも考えてほしい」と述べた。

国会議員らと市民が意見を交わした自民党女性局のふるさと対話集会

村山市・榎岡市民センター